

イノシシ ≠ イノブタ？

田植えが終わった寅次さんの田んぼの脇で。

寅次：今年はシシめはどーだかなあ。

惣吉：おらげんとは、去年さーんざかんまされっちって、ひでめにあったぜや*。

寅次：ここらのはイノブタだっつうから、どんどん増えてんじゃあんめか。

惣吉：年に2回も3回も生むってからな。

寅次：容易じゃねーなあ**。

*ひでめにあったぜや：ひどい目にあいましたよ

**容易じゃねーなあ：(対策は)簡単ではないですね



イノシシとイノブタは違う動物でしょうか？

「八溝地区にいるのはイノシシだけれど、両毛地区にいるのはイノブタだから、**どんどん増えていく**」といった話を聞きます。確かに遺伝子の分析では、両毛地区での捕獲個体の一部から、ブタの系統が確認されています。しかし、本当にブタのようにたくさんの子供を産むのでしょうか？



P：森林総研永田氏

野生動物の救護活動で表彰

怪我をした野生動物の救護活動に協力いただいた鈴木誠一さん(宇都宮市)に、このほど環境省自然環境局長より感謝状が贈呈されました。鈴木さんは、特にムササビの救護に、家族ぐるみで尽力されました。



中央が鈴木氏

発行：鳥獣新聞編集部（栃木県自然環境課内）

TEL028-623-3261 FAX028-623-3212

ご意見、ご要望などお待ちしております。

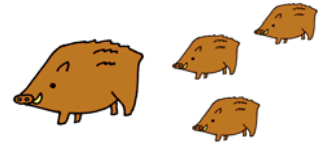
無断転写、複製、転送、公開、掲示、配布など大歓迎！



イノブタもブタも、元はイノシシ

ブタは毛が薄く、尻尾が丸まっていたりと、イノシシに比べ見た目がかなり違いますが、**ブタは元々イノシシを改良して家畜化したもの**で、分類上は同じ種（学名はともに *Sus scrofa*）となります。

ブタとイノシシをかけ合わせてできたのがイノブタですから、やはり**イノブタもブタと同じ種**ということになります。



子供の数は餌で決まる

飼育場でおいしい餌を食べているブタやイノブタは、いちどに 10 頭以上の子供を産むことが知られています。しかし、海外の研究例では、**野生化したブタやイノブタは、イノシシと同じく平均して4～5頭程度しか出産しない**ことがわかっています（宇都宮大学小寺氏からの情報）。野外ではおいしい餌をまとめて食べることができないため、出産できる数も制限されるものと考えられます。

イノブタは年に2～3回出産するって本当？

飼育下のブタやイノブタが年に何回も出産するのは、子供が乳離れする前に、親から引き離して人の手で育てているためです。

野外では通常年 1 回出産しますが、気温などの条件によって出産のピークが 2 回になります。3 回以上出産することはありません。一度出産した個体でも、**生まれた子供が事故などですべて死んだ場合には再び発情する可能性があります**。逆に、イノシシでも、ウリボウが全て捕獲されてしまえば、同じ年にもう一度出産することがあるようです。

結論：イノシシとイノブタはそれほど違わない

以上のことより、**野外においてはイノシシとイノブタはそれほど変わらず、繁殖力もほぼ同じ**と言えます。実際に、捕獲されたイノシシの胎児の数は、八溝地区と両毛地区で差がないことがわかっています。対策を行ううえでは、同じ動物と考えてよいでしょう。

獣害対策モデル地区の取組始まる

住民と行政、専門家が一体となって獣害に強い地域作りを行う、モデル地区の取組が始まりました。現在那須塩原市と佐野市で、集落勉強会や集落環境点検を実施中です。今後は同じ取組を、各地に広げていく予定です。

